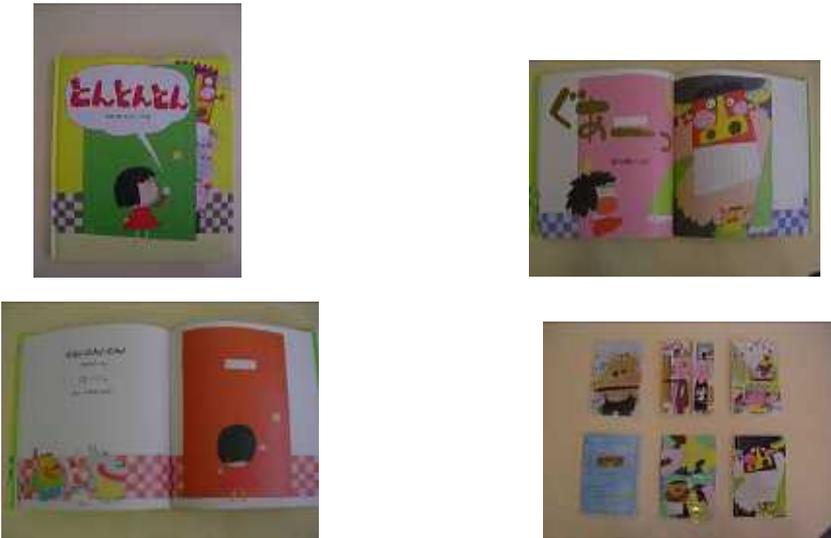


教材事例書式

教材教具名 ドアの向こうは誰？	教科（遊び学習）	
		
<p>教材教具の概略（ねらいと使い方） 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等</p>		
<p>1 ねらい ・学習の進め方を理解する。 ・物語の流れを記憶し、ドアの向こうの登場人物のカードを選ぶ。</p> <p>2 発達段階 ・様々な物に興味を持てるが、自分本位の楽しみ方になり易い。</p> <p>3 使い方 ・絵本「トントントン」のドアを本児がノックをしたら教師が返事をする。その返事を聞いた本児はそのドアの向こうにいると思う人物のカードを複数の中から選びとり、絵本のドア部分にあてることで回答する。正解であれば一緒に拍手をし、間違っていたら選び直させる。</p>		
<p>児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等（次に利用する方のために）</p>		
<p>学習方法を初めて知らせる時、母の協力を求め前述のやり方を本児に見せて頂いたことで、早く理解することができ、ねらい通りの学習方法が展開できた。</p> <p>1回目の学習をした後、本児自ら絵本を読みたがり、1ページずつ読み返し内容を確認していた。</p> <p>1・2回目は二者択一で行い、ほとんど正解を選びとれなかったが、残った正解のカードを取り直し提示させることで確認していくと、3回目から正解が出てきて、4回目は6問中4回正解ができた。</p> <p>本児の体調不良のため、3週間授業ができず再開したら正解は1回になり、本児はストレスを感じ教材を片づけてしまった。</p> <p>ほぼねらい通りに展開できているが、訪問学級の場合、授業間隔が長くなるケースも多く定着が難しい。</p>		